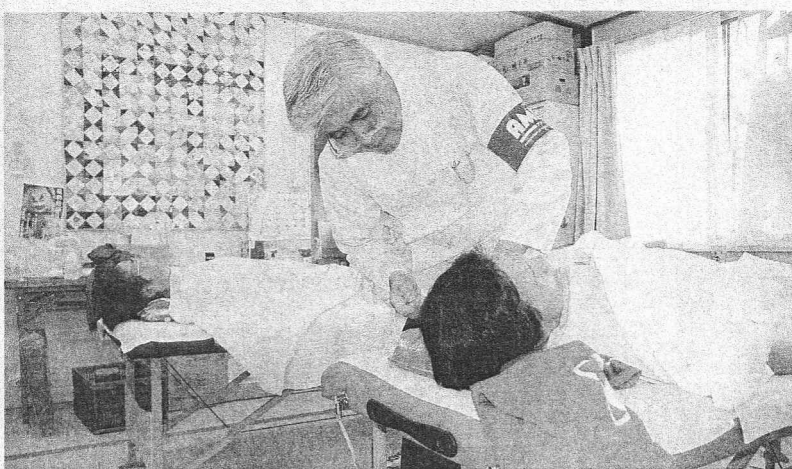


# “つぼ押さえた”医療充実を

石巻・雄勝



東日本大震災で医療機関が仮設の診療所1カ所だけとなっている石巻市雄勝町で、岡山市の医療支援NGO「AMDA」が、はり・きゅうの無料巡回診療に乗り出した。市内の鍼灸（しんきゅう）師を雇用し、仮設住宅などに出張する。いずれは有料の保険診療に切り替え、医療態勢の充実につなげたいと考えた。

巡回診療は4月下旬に始まった。毎週水曜日、仮設住宅など事前に設定した5カ所のうち、2、3カ所ずつを訪れる。

診療を担当するのは吉田保さん（56）。石巻市広瀬で、はり・きゅう院を営む。震災直後はボランティアで雄勝町の避難所で治療に当たった。

農漁業で体を酷使していた住民の多くが、震災でさらに過労状態になったと感じていたこともあり、AMDAからの依頼を快諾した。

## 岡山のNGO 鍼灸の無料巡回診療

2日には、吉田さんとAMDAのスタッフ3人が立浜、水浜両地区の仮設住宅に向かった。談話室を借り、肩や膝などの痛みを訴える被災者約10人に、はり・きゅうを施術したり、運動療法を指導したりした。

肩がしびれるほど痛かったという女性（56）は「驚くほど軽くなった。雄勝から市中心部や仙台まで治療を受けに行くのは大変。来てもらえる」と助かる」と感謝した。

AMDAは雄勝町や岩手県大槌町などで医療支援活動を展開。大槌町では震災直後から鍼灸師による診療を始め、昨年12月に常設の健康サポートセンターを開設した。

AMDAプロジェクトオフィサーの大政朋子さん（39）は「震災から1年以上が過ぎても、雄勝町は復旧が進んでいない。住民に心も体も元気になってもらえるよう長期的に支援したい」と話している。

仮設住宅で被災者の診療に当たる吉田さん

（中央）—石巻市雄勝町水浜